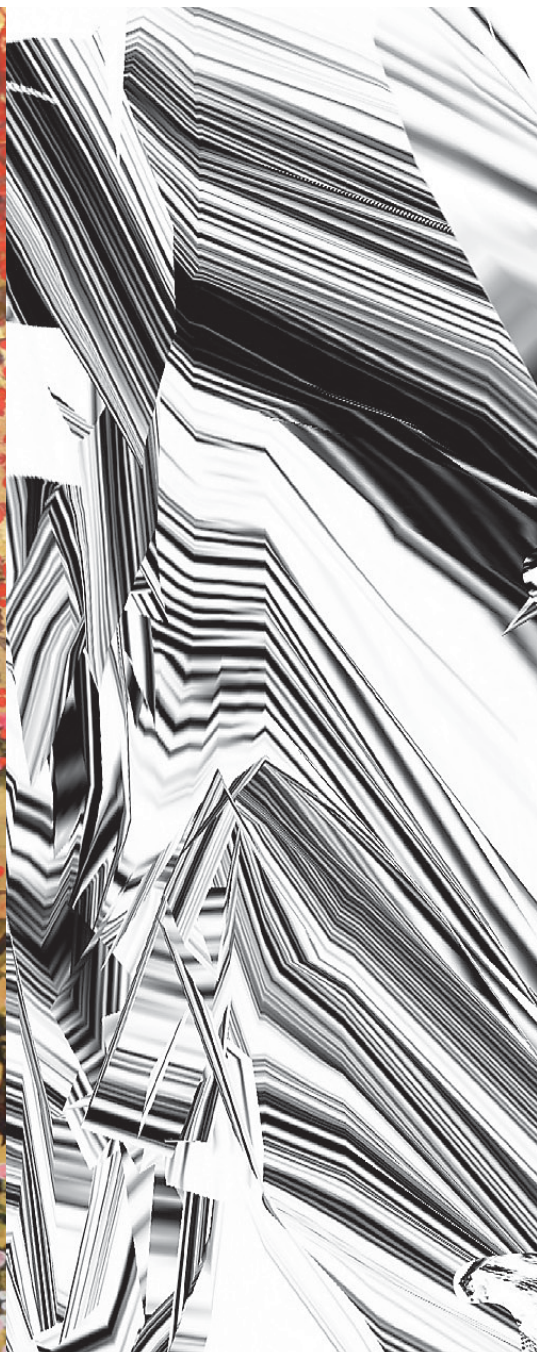


論 存 在 の 不 在

諫山元貴《a study of chimera》(部分)2016年



主催／広島芸術学会(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hirogei>)



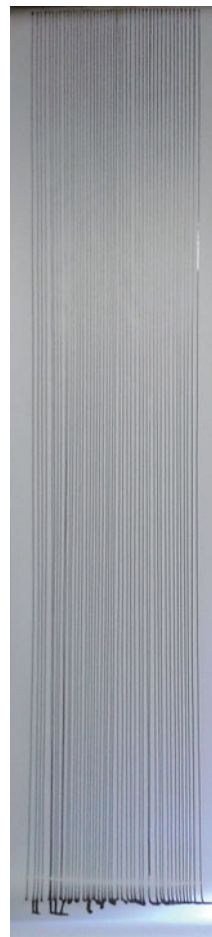
1



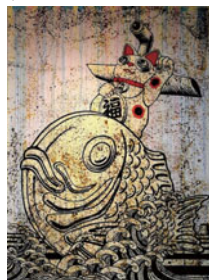
2



3



8



4



5



6



7



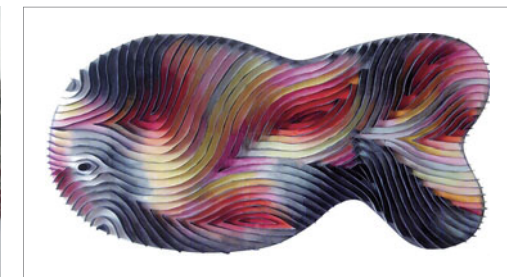
9



10



11



12

広島芸術学会芸術展示 第10回展 不在の存在論

地域に根差した学会として、広範に活動を続けている広島芸術学会。同会の設立20周年の機会に合わせて規模を拡大し、隔年で実施している「芸術展示」を開催致します。

テーマは「不在の存在論」。広島では、原爆投下により多くのものが失われました。しかし、それにもかかわらず、私たちのそばに残り続けるものがあるのではないかと思います。持ち主の失われた被爆遺物が、いまなお強固に存在感を感じさせるように。

本展では、広島芸術学会会員と、広島ゆかりの招待作家を併せた、17名の作家たちの作品を同時期に2か所の会場でご紹介します。広島に住まい、思索を深めてきた作家ならではの「不在」を表現した作品群をぜひご覧ください。

出品作家によるアーティスト・トーク(司会:山下寿水〔本展企画担当者、広島県立美術館学芸員〕)

2月25日(土) ○14:00～(ギャラリーG) ○14:30～(広島県立美術館 県民ギャラリー)

広島芸術学会について

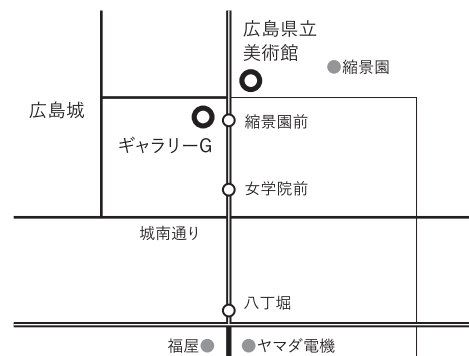
広島芸術学会は「市民に開かれた学会」をモットーとして、1987年に設立されました。その基本精神は、次の3項に要約できます。

1. 市民、作家、研究者に等しく開かれた学会であること。
2. 芸術の諸ジャンル、美術、音楽、文芸、建築、デザイン、工芸、演劇等を網羅し、創作的実践と学術研究の相互啓発を目指すこと。
3. 地域の閉鎖性を脱し、広く国内外のネットワークを築くこと。

設立以来、今日まで趣旨を変えることなく、年次大会(年1回、7月)と定期例会(年4回)の開催、研究年報(7月刊行)及び会員間の情報交換のための会報(年5回)の発行、隔年での芸術展示を継続的に実施しています。

1. 柴川敏之《出現II.40121101(2000年後に発掘された地球儀の出土品)》photo by Takuya Oshima 2. 根本達展《生(き)―予感》2016年 3. 田川久美子《何者》2016年 4. 才田博之《たい焼きサブマリン》2016年 5. 久保田貴美子《ヒミツの花園》2012年 6. 越川道江《オシャベリデスゴス》2013年 7. 的場智美《潮待ち風待ち》2016年 8. 范叔如《垂れる》2016年 9. 三浦美一《山よりも高く 海よりも深く》2016年 10. 中山いくみ《Re:ターニング・ピクチャー S.D.》2015年 11. 千田禪《当たるも八卦 当たらぬも八卦》2016年 12. 藪野圭一《モンカシテ バクダン ソレトモ キンギョ》2016年

※一部、実際の出品作とは異なります



□広島県立美術館県民ギャラリー

〒730-0014 広島市中区上八丁堀2-22
TEL.082-221-6246

□ギャラリーG

〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1公開空地内
TEL.082-211-3260